

## 北大東島（大東諸島）のうつりかわり

大東諸島は、他の大陸と一度も陸続きになったことがなく、地質学的にも沖縄本島と異なって南方より移動してきたといわれます。

約 480万年前 今の大東諸島の起源は、現在のニューギニア諸島付近で火山島として誕生しました。火山島は、約 4200万年前にフィリピン海プレートに乗り北上を続けながら沈下し、頂上にサンゴ礁の堆積物が積み重なりました。

約 400万年前 北と南大東島は、同じ火山島であり、二つの頂上がこの頃分かれたといわれます。南・北大東島の間には、1000~ 2000 ほどの水深があるといわれ、南に約 1000 の沖大東島も、同じプレートによって隆起しました。この三島は同じ運命をたどった島です。

約 250万年前 サンゴ礁の島は、長い間海に沈んで移動して現在のようになりりましたが、陸地ではなく、環礁のようなリング状のサンゴ礁で、海面すれすれに島を形成していたといわれています。

約 600万年前 サンゴ礁は、プレートの動きが西の琉球海溝へ方向を変えました。長い旅を続けたプレートは、琉球海溝に沈み込んできた、たわみで環礁が隆起して、現在の北大東島ができあがったといわれます。現在も 1 年間に約 5 釐づつ沖縄本島に近づき、移動を続けているといわれます。（琉球大学理学部海洋自然科学科大出茂助教教授の研究資料による）

西暦	和 暦	月 日	こ と が ら
1543	天文 12	9- 25	大東島は、古くから「うぶあがりじま」として琉球人の間でその存在が知られていました。 スペイン人、B . デ・ラ・トーレ、メキシコに向かう途中、島を発見、「マル・アブリゴ ( Mal Abrigo ) 」と命名しました〔沖大東島だといわれます〕。
		9- 27	トーレ、2 つの大きくて高い島を発見、「ラス・ドス・ヘルマナス ( Las dos Hermanas - 二人姉妹島 ) 」と命名しました〔南・北大東島だといわれます〕。
1622	元和 8		この年刊行のヘリツの「太平洋図」に大東諸島が記載されました〔この地図の Illequejo grande - レキヨ・グランデ ( 大琉球 ) 、 Las dos Hermanas - ラス・ドス・ヘルマナス ( 南大東島 ) ・ Malosbriga- マロスブ リガ ( 沖大東島 ) を示すといえます〕。
1630	寛永 7		このころから大東島が欧米の地図に記載されはじめ、多くの地図に、南・北大東島に相当する位置に「アムステルダム」の一島が記載されているといえます。
1670	寛文 10		この年発行のイギリス最古の海図帳「セラーの「東インド最東部の図」に沖大東島を「アムステルダム」の呼び名で記載されました。
1788	天明 8		沖大東島の島名に「ケンドリック島」の名が載せられました。アメリカ合衆国帆船、ワシントン号・コロニア号を率いて北米の西海岸探査したキャプテン・ケンドリックにちなむといえます。
1807	文化 4		フランス軍艦カノニエル号、沖大東島を視認し「ラサ島」と命名したそうです。
1811	文化 8		高橋景保の『日本境界略図』には、大東島と思われる位置に「ケルマ子 ( ネ ) ス」島とあります〔トーレが南北大東島を発見して命名した「ラス・ドス・ヘルマナス」の「ヘルマナス」を「ケルマ子 ( ネ ) ス」と読み間違えたものでしょう〕。
1815	文化 12		グラーゼンシュテルンの『太平洋西北部海図』ドイツ語版 ( 1815 年頃ペテルスブルグ刊 ) に沖大東島と思われるあたりに「ビショップ島 ( 1796 年発見か ) 」の名が見えます。
1820	文政 3		ボナフィディン指揮のロシア艦船ボロジノ号、大東諸島を発見、「ボロジノ諸島」と命名。
1853	嘉永 5	5- 16	ベリー、小笠原島調査の帰途、南・北大東島を「ボロジノ諸島」と確認して、位置を測定しました。
1876	明治 9		この年、ドイツ軍艦「コルベット」型艦長ノール、ラサ島を見つけて、位置を測定しました。
1885	明治 18	8- 28	時の沖縄県令西村捨三が内務省の内命を受けて、出雲丸で石澤兵吾を派遣しました。大東島を領土に組み入れる最初の調査でした。
		8- 29	内務省、大東島を踏査して県の管轄としました。南大東島を踏査し北東部に国標を建てました。
		8- 31	北大東島を踏査し国標を建てて、両島を「大東諸島」と公称しました。両島は沖縄県の管轄の下、日本の領土であることをはっきりさせました ( この調査には、英国出版の海図を使用し、大東島回航のおりに作図したのが「大東島畧図」です ) 。
1891	明治 24	12- 10	南・北大東島、那覇役所管轄となりました。
1892	明治 25	8- 5	日本海軍軍艦海門が、大東諸島調査のために南大東島着き、調査員が上陸しました。ついでラサ島に上陸。両島に「標木」を建てました。
		8- 7	北大東島には上陸せずに、ただ東北沿岸を周航し艦上から観察するだけで、佐世保に向かいました。

西暦	和 暦	月 日	こ と が ら
			この年、政府、大東島を日本領土と世界に公表しました。
1899	明治 32	11- 23	玉置半右衛門所有の帆船回洋丸が、八丈島末吉村洞輪沢港を出帆して、大東島に向いました。
		12- 22	回洋丸、那覇港に到着しました。
1900	明治 33	1- 23	苦難の末に、南大東島の現在の西港を選んで一行 23名が上陸に成功し、開拓の第一歩をのりました。
		9- 11	内務大臣西郷従道の名で「訓第 913号」によって、「沖大東島」と命名されました。
		10- 17	「沖縄県告示 95号」により、沖大東島が沖縄県島尻郡大東島の区域に編入されました。
1903	明治 36	6- 15	県は、大東島土地測量のため那覇港出航。奈良原繁沖縄県知事が大東島視察のため同乗しました。 知事一行は、南大東島に上陸し視察しました。次いで沖大東島に上陸・視察後に、北大東島に着き、上陸して調査を開始しました。踏査は困難を極めました（～ 6 - 20）。 この年、玉置商会は北大東島が手つかずのため、開墾の意志表示するために社員山田多恵吉外数名を北大東島に派遣しました、一行は現在の村役場の前を開墾し甘蔗 8 株を植えつけました（この時上陸した地点は「上陸」の地名で残っています）。
1908	明治 41		玉置半右衛門、北大東島燐鉱採掘の計画に着手しました。
1910	明治 43	7-	合名会社玉置商会が設立されました。 北大東島の開拓は燐鉱採掘を主とし、甘蔗作農を従として推進されることになりました。
		11- 1	島島に渡った玉置半右衛門が、東京へ帰る途中に船中で発病し、東京で死去しました。72歳でした。
1911	明治 44		この年になって、北大東島では本格的な糖業事業にむかいます。島の中央低地の池の沢を起点に、開墾および甘蔗の植付けが開始されました。
1912	明治 45		幕上の西部まで甘蔗の耕作地が拡大され、白下糖の製糖を開始するまでになりました。
1916	大正 5	3- 11	玉置半右衛門没後、事業不振になった玉置商会は、東洋製糖株式会社と経営を譲渡する仮契約をむすびました。
		4- 22	本契約を結び、合併しました（15万円・現在の金額で約 3 億円で売却しました）。
1917	大正 6	6- 15	北大東島は玉置商会同様、東洋製糖社直営として黒糖を製造、小作制度に改めました。
		11- 12	玉置商会は国から南・北大東島を払い下げられました。北大東島の面積 1,889町 3100 価格 5,860円。
		12- 24	土地問題は正式に玉置商会名義で東洋製糖に払下げられ、那覇区裁判所に登記されました。
1918	大正 7	4-	ラサ製糖株式会社に刺激され、東洋製糖は北大東島の燐鉱を試掘し採掘事業を再開します。
		5- 1	玉置商会は、南・北大東島を東洋製糖会社に売却しました。
1919	大正 8	5-	北大東島の設備がほぼ完成し、燐鉱の採掘が本格化しました。
1921	大正 10	6- 22	私立北大東尋常小学校が認可されました。児童数 2人。
1924	大正 13		この年から造林事業が始まります。開拓以来の開墾、乱伐によって防風林の必要性が叫ばれていました。
1927	昭和 2	7- 29	東洋製糖株式会社はこの年の金融恐慌によって、大日本製糖株式会社と合併することになりました。
1928	昭和 3	2- 20	第 1回総選挙（最初の普通選挙）島民に選挙権が与えられましたが、県会議員の選挙権はありませんでした。
1931	昭和 6	9-	日本海軍が大東島近海で特別大演習開始しました（～ 10月 2日）
1934	昭和 9	3- 8	東北大学理学部地質学古生物学教室の研究者たちが、赤池付近やその他で地質調査が始まりました（～ 4月 27日）。
1941	昭和 16	12- 8	第 2 次世界大戦がはじまります。
1944	昭和 19	3- 24	大本営は、太平洋方面の防衛を強化するため、沖縄方面の第 32軍に大東島の防衛強化を指示しました。
		7- 25	北大東島守備隊の豊部隊第 2 大隊 1010名が島に到着しました。 物資がしだいに欠乏して、米大人 1日 1合 5勺・タバコ 6本・酒 1月に 2合配給になりました。疎開者の出発があいつぎました。
1945	昭和 20	2-	2月以降からは、戦争のようすが悪くなり島民の壊生活が多くなりました。 米軍機の銃撃・爆撃や米機動部隊の艦砲射撃がつづき、被害が出ました。
		8- 18	戦争が終わったことが知らされましたが、住民は食料の欠乏に悩まされました。
		9- 9	米軍の指示により、兵器・弾薬を西港に分類して集められ、兵器・弾薬が爆破されました（～ 10月 13日）。
		10- 14	北大東島より陸海軍全員が引揚げました（～ 11月 25日）。
1946	昭和 21		戦後、食料自給に力を入れ、甘藷・麦・豆など食料作物の生産に励みました。農地は荒れ果てて偽装用に植えた銀ねむやすすぎが生い茂り、もとの耕地にもどすのは大変な時間と労力を要しました。役場・農協はブ

西暦	和 暦	月 日	こ と が ら
			ルドーザーを購入して、荒れ地の解消に努めました。
		1-	北大東島人口 745名（日糖北大東島出張所調べ）。
		6- 11	米国軍政府により北大東島の日糖社の全財産を接收しました。旧日本紙幣5円以上とB円（軍票）の交換が始まりました。
		6- 12	「沖縄民政府告示第4号の1」により村制が始まり、北大東村が誕生しました。
1948	昭和 23	1- 2	糖業の復活が許可されました。昨年8月より糖業の復興をはかり関係部に許可申請中でした。
		7- 16	通貨が切替えられ、日本円小額紙幣・硬貨とB円（軍票）の交換が開始されました（～2日）。
1951	昭和 26	3- 27	鉱業所が閉鎖されて、南・北大東島が海上輸送の問題で困りました。船の欠航が続いて、島の食料が不足してきました。
		7- 7	土地の所有権を村民の物にしようと、陳情のため村長ほか数人が出発しました。
		7- 23	南・北両大東島村長らは、中央政府に「航路問題・土地所有権問題・労力問題・甘蔗作り」について困っているようすを訴えて、よくなるように要請しました。
			この年より、本格的な糖業の復興が始まりました。
1952	昭和 27	7- 24	大東島の「土地」について、資源局で日糖社と所有権の譲り渡しの交渉がはじまります。
1954	昭和 29	3- 1	米国がビキニ環礁で水爆実験をしました。放射能雨で大騒ぎになり、天水・魚類などが放射能をおびて危険だといわれました。
		7-	放射能の危険がないとわかって、水産業者たちは安心しました。
1955	昭和 30		高校入試で、初めて出張試験の試験官が来島しました。
1956	昭和 31	2- 23	土地所有権の陳情で協議して、代表者を5名決定しました（以後、土地所有権の陳情団の派遣が続きます）。
		4- 16	北大東村字ラサ島（面積 1,14平方 <sup>米</sup> 、ラサ工業所有地）が、米軍の射撃場として設定され、沖大東島を射撃場として使用され始めました。
1957	昭和 32	11- 4	開拓者玉置半右衛門の記念碑が建てられました。
1958	昭和 33	5- 5	北大東郵便局が開局しました。
		9- 12	北大東製糖株式会社が創立されました（資本金 1500万円〔B円〕）。
1959	昭和 34	6- 22	土地所有権獲得期成会が結成されました。
		8- 21	第3回北大東村土地所有権獲得期成会の決起大会が開かれました。
1961	昭和 36	4- 6	県警交通課に南・北大東島で自動車運転免許がとれるように要請しました。
		6- 8	キャラウェイ高等弁務官が、南大東島訪問の機会に、村長らは土地問題について訴えました。
		10- 2	台風2号（チルダ）の襲来で、島はひどい被害を受けました。レバノン船籍のセイカ号（7300 <sup>トン</sup> ）が北大東島東岸に坐礁しました。
		10- 9	台風2号の余波で、アメリカ船バイオニア・ミューズ号が北東海岸に坐礁し、乗組員を収容しました。米艦船ヘリで那覇へ移送しました。
		11- 21	法務局は大東島の現地調査を終り、日糖の土地所有権には疑問があると発表しました。
1962	昭和 37	12- 1	米琉合同土地諮問委員会に土地問題のことで南北代表者が出席しました。南北両村の代理人に牧野博嗣弁護士を選びました。
1963	昭和 38	1- 7	米琉合同土地諮問委員会で土地問題の審議がはじまりました。
		7- 6	土地所有権獲得村民総決起大会が開かれました。
1964	昭和 39	5- 2	全島の電化が実現しました（農協経営）。
		7- 17	土地問題合同会議で、キャラウェイ高等弁務官の「土地所有権は農民にある」との最終決定が出ました。日糖側は回答を保留しました。
		7- 30	民政府布告第2号により、土地所有権が認められ、南・北大東島の土地が農民の物になりました。
1965	昭和 40	7- 15	ワトソン高等弁務官ら一行来島して、土地譲渡証書を交付しました。
1969	昭和 44	7- 2	土地所有権の登記が開始されました。
1971	昭和 46	5- 1	北大東空港簡易滑走路の落成式が行われました。
		6- 17	「琉球諸島、大東諸島に関する日本とアメリカの間の協定（沖縄返還協定）」が、日米で同時に調印されました。

西暦	和 暦	月 日	こ と が ら
1972	昭和 47	9- 13	山中貞則国務大臣一行が来島し、島内を視察しました。
		12- 13	北大東島灯台の点灯式が行われ、航海が安全になりました（遭難船があいついだため）。
		5- 15	沖縄の日本復帰が実現しました。村役場で通貨交換が始まりました（円交換 1 <sup>ドル</sup> = 305円）。 沖大東島が日本に復帰して、提供施設となり、引き続き米軍の射撃撃場として使用されることになりました。
1973	昭和 48	10- 4	文化庁による大東諸島の動植物・地質調査が行われました。
		6- 2	「ダイトウオオコウモリ」と「長幕の崖及び崖錐壁の特殊植物群落」が国の天然記念物に指定されました。
1974	昭和 49	10- 12	沖縄が日本復帰によって、沖大東島も所有権はラサ工業にもどりました。
1975	昭和 50	3- 30	ラサ工業、沖大東島の賃貸借契約及び覚書を国と締結しました。
1977	昭和 52	3- 31	南・北大東島にテレビ放送試験局開局（19:30~ 21:30の2時間、那覇から空輸のビデオによる放送）。
		11- 13	定期船協栄丸が就航し大東航路が一本化されました。
1978	昭和 53	10- 10	子どもたちの学習意欲を高めようと、学習意欲高揚対策委員会が発足しました。
1979	昭和 54	4- 21	北大東飛行場が落成しました（滑走路幅 25 <sup>メートル</sup> 、長さ 800 <sup>メートル</sup> ）。
		6- 30	北大東空港の開港式がありました。第一便が飛来（週3便〔月・水・金〕）運航ははじまりました。
		7- 30	沖縄県の交通区分が変更され、「人は右、車は左」となりました。
1984	昭和 59	3- 14	南大東無線中継所が完成し、南・北大東島の自動ダイヤル式電話が開通しました。
		3- 19	村章が制定されました（北大東小学校島袋盛栄教諭の作品）。
1985	昭和 60	3- 30	信号機が取りつけられ、点灯されました。
		5- 12	放送衛星「ゆり2号」の打上げで、NHKテレビ衛星放送開始の同時視聴が可能になりました。
1986	昭和 61	3- 25	鍾乳洞の「北泉洞」が県指定天然記念物に決定されました。
		4- 1	北大東簡易水道の通水式が行われ、村民待望の水不足が解消されました。 大城海運の経営権をめぐる内部の争いが表面化し、船の運航が困難となり、南・北両村で新会社「大東海運」設立の動きがでてきました。
		3- 3	大東海運が設立されました。
1989	平成元	5- 16	海水淡水化により簡易水道が完成しました。 大城海運所属「協栄丸」を、大東海運所属「大東丸」と改名して、就航はまりました。
		11- 11	南・北大東島共同でラサ島（北大東の行政区）を視察しました。
1990	平成 2	2- 9	愛媛県山中造船で新造船「だいとう（699総トン・全長 73 <sup>メートル</sup> ・幅 11 <sup>メートル</sup> ・航海速度 16ノット、旅客定員 55名）」竣工しました。 5 - 2 大東海運所属「だいとう」、「大東丸」にかわって第一次航海を始めました。
1991	平成 3	5- 29	人材育成会が発足し、ふるさと創生審議委員会が結成されて「学習塾」に関して審議されました。
1993	平成 5	4- 15	北大東村営学習塾の開塾式が行われました。
1994	平成 6	9- 1	英語指導助手（本村初代ALT）が着任しました。
1995	平成 7	11- 3	糸数誠一元村議会議長が勲五等瑞宝章を叙勲されました。
1997	平成 9	12- 31	「うふあがりの鐘」が落成して、初の除夜の鐘がつかれました。
		4- 4	ヘール・ポップ彗星現れ、肉眼で観察可能でした。夜、学校で観測会が行われました。
		4- 11	宿泊施設「ハマユウ荘・うふあがり島」（ホテル形式）が落成しました。
1998	平成 10	8- 16	台風 13号が接近して夜半通過し、猛威を振いました（空港東側フェンス破・決壊、江崎港バース決壊）。
		10- 9	北大東飛行場拡張工事が完了、開港式典が行われました。DHC 8 型機（39座席）北大東に就航。南・北大東間飛行ルートが新設されました（運賃 646円）。
		2- 21	人材育成会主催の第 1 回中学生英語話し方競技会が開催されました。
1998	平成 10	3- 19	沖縄郵政管理事務所、東京のテレビ局に南・北大東島に設置する地上波テレビ放送局に免許交付しました。
		4- 1	テレビ放送開始されました。北大東・那覇間航空運賃改訂、南大東と同額（30,980円）になりました。
		5- 4	午前 8 時 30 分ごろ石垣島南東沖を震源地とする地震（M7.7）が起こり、大東島震度 1 を観測しました。沖縄県一帯に津波警報がでましたが、ことなきを得ました。
		10- 7	島田懇談会で、北大東村の人材交流センター事業の実施が決定され、民俗資料館も実現の希望ができました。
		11- 10	国土庁の過疎地域活性化優良事例に北大東村『なかよし塾』が国土庁長官賞を受賞しました（於倉敷市）。

西暦	和 暦	月 日	こ と が ら
1999	平成 11	11- 26	文部省指定「へき地学校高度情報通信設備活用方法研究開発事業」最終年次の発表会がありました。
		11- 30	N H K総合テレビ「ひるどき日本列島」生放送で南・北大東島を紹介しました（～ 12- 4）。
		3- 20	地域振興券が 170世帯に発行され、農協・商店・診療所などで利用できました。
2000	平成 12	5- 3	浅沼三泰元村議会議長が勲五等双光旭日章を叙勲されました。
		6- 6	北大東村地域スポーツセンターの竣工記念式典が挙行されました。
		7- 3	今年度県中学校英語話し方競技会で、中3 仲嶺千尋最優秀賞を受賞しました。
		9- 7	南・北大東島に携帯・自動車電話の営業が開始されました。これで県内 53市町村の全地域に開通しました。
		3- 10	大東諸島開拓百周年記念事業村民総決起集会在開かれました（テーマ『みんなで創った1世紀』）。
		4- 7	「高齢者憩いの場」が完成しました（毎週月・水・金にデイケア実施）。
		4- 29	北大東村にて第 5回沖縄県植樹祭が行われました（牧野浩隆県副知事・砂川朝信県教育長ら来島、参加）。
		5- 12	第 1回沖縄県最東端のビッグフィッシング大会（百周年記念行事、～ 13日）。
		6- 18	日本島嶼学会大東諸島開拓 100周年記念特別研究大会が開催されました。
		8- 5	第 1回北大東島友好の集い（沖縄本島にて）が開催されました。
2001	平成 13	8- 7	大東諸島開拓 100周年記念ゴルフコンペ（沖縄本島にて）が開かれました。
		9- 1	第 1回北大東島スポーツと友好の集い（八丈島・南大東・本島より招待）開催。
		9- 24	北大東島開拓 100周年記念式典。
		12- 20	上陸公園で北大東島開拓百周年記念碑の除幕式が行われました。 人材交流センター・民俗資料館落成記念式が行われました。
		1- 15	人材交流センターおよび民俗資料館が一般に公開されました。
		1- 19	県立芸大講師・学生・OB（17人）による、伝統芸能「組踊り」観賞会が開かれ、『執心鐘入』が上演されました（新装の人材交流センターホールにて）。